

津波時の浸水想定区域での活動を勘案した消防活動計画等に関する意見聴取会
(第1回)
議事概要

1 日時：2024年9月6日（金）10時00分～12時00分

2 場所：中央合同庁舎第2号館3階 消防庁第1会議室

3 出席者（敬称略・五十音順）

(1) 【構成員】

関澤座長、今村構成員、大照構成員（大月氏代理出席）、鍵本構成員、久保田構成員
（重田氏代理出席）、近藤構成員、関構成員、竹内構成員、中西構成員、西田構成員、吉田構成員

(2) 【オブザーバー】

全国消防長会 國本事業企画課長
気象庁 下山防災企画室長
宮城県 田畑消防課長
消防庁 細川研究統括官
内閣府 森久保参事官

4 議事

- ・過去の検討会報告書概要について
- ・各消防本部における津波時の消防活動計画について
- ・検討事項とスケジュールについて

5 議事概要

事務局及び各消防本部から資料の説明後、意見交換を実施した。主な意見の内容は次のとおり。

・津波到達後の活動再開に際して、どのような情報を、どういう優先順位で利用しているのかを整理する必要があるのではないかと。

・情報収集及び連絡体制については、消防機関内部の情報連絡体制だけでなく外部からの情報収集体制についても検討するべきではないかと。

- ・ 発災初期の非常召集職員の健康管理・確認や、イレギュラーな状況の中で部隊編成をどうするのかについても検討してもよいのではないか。
- ・ 職員、車両の退避については、渋滞が懸念されるため、消防が安全に計画通り活動できることの重要性を市民にも事前に認識してもらうことも重要ではないか。
- ・ 火災対応優先など、過去の災害の教訓を経験していない消防本部の方や住民の方にもできる限りご理解をいただくような初動計画ができれば良いと考えている。
- ・ 策定した計画を消防職員だけではなく、消防団にも共有していくことが重要である。
- ・ 東日本大震災後の検討会報告では、活動時間を定めて津波到達以前に活動して、安全時間のうちに退避する計画であったが、輪島市大規模火災では、津波警報等が長時間発表される中、安全を確認しつつ、津波浸水想定区域外からの放水活動を含めて消火活動が行われた。津波のリスクは状況の推移によって減退していくため現場で確認して判断できることもあると考えている。その点について消防本部の構成員から意見をいただいて検討が進めば良いと思う。
- ・ 浸水エリアに関しては、想定最大津波高クラスのものに加えて、警報級又は注意報級の範囲を推定しておくことは非常に重要な情報になると感じる。
- ・ 群発地震や関連の複合災害の発生など、地域における過去の災害を踏まえ、計画を見直している地域もある。ハザードや状況は変わるものであるため、それらを踏まえて議論し計画を見直していくのが重要。
- ・ 気象庁の情報や情報は、オールジャパン対象であり、現段階では詳細な地域毎の今後の推移や収束の見込みなどの予測情報がない状況である。そのため、独自に津波計や監視カメラを活用して消防本部が地域の情報をリアルタイムにモニタリングすることやドローンを活用していくことが重要である。
- ・ 避難誘導については、浸水想定区域内の人に対して行うものもあるが、浸水想定区域内に人が入ってこないような誘導も警察と連携して行うことも重要だと考えている。
- ・ 津波時の消防活動計画には、①エリアの細分化と②リアルタイムの情報を共有して活動範囲を狭めることがポイントである。

・津波等に対する消防職員の安全管理を前提としつつ必要な消防活動計画について議論を進めていく必要がある。

・安全に使える防火水槽や川の水を利用しながら津波浸水想定区域外から消防活動を行い焼損面積を減らすなど、現場で安全を確認しながら適切な活動を行っていくことが必要である。

・計画例のボリュームは、あまり多いものではなく、職員に内容が浸透できるようなシンプルなもの望ましいと考える。また、計画を策定していく中で自分たちの管轄するエリアに関する議論を行い、訓練を実施していくことが重要であるとする。

・計画に基づいた活動がスムーズに実行できるようにしていくことが重要だと考える。また、どのような情報を集めれば活動ができるのかといったことを示し、関係者などから協力を得られるようにしていくことも必要ではないか。